

厚岸町120年のあゆみ

1900(明治33)年に誕生した厚岸町。120年の歳月を年表と写真で紹介します



厚岸フェリー厚岸丸



釧路厚岸間に鉄道が開通(大正10年頃)



建設中の厚岸大橋



町営渡船

- 1972(昭和47)年 ● 町民憲章、町の木・花・鳥を制定する
- 1969(昭和44)年 ● 厚岸大橋が完成 ● 日本道路公団の厚岸フェリーが廃止される
- 1968(昭和43)年 ● 厚岸大橋の工事に着工
- 1967(昭和42)年 ● 町立厚岸病院が梅香町から住の江町へ移転新築される
- 1964(昭和39)年 ● 門静にデッカ局が設置される ● 真竜中学校が全焼する
- 1963(昭和38)年 ● 上尾幌炭坑が閉山する
- 1960(昭和35)年 ● 第1回あつけし牡蠣まつりが愛冠岬で開催される
- 1959(昭和34)年 ● チリ沖地震により、最大4・1mの津波を観測
- 1957(昭和32)年 ● 国泰寺日鑑記が北海道の有形文化財に指定される
- 1955(昭和30)年 ● 日本道路公団の厚岸フェリーが開通、厚岸丸が就航する
- 1955(昭和30)年 ● 太田村南部(本村地区)と合併する ● 厚岸道立自然公園に指定される
- 1952(昭和27)年 ● 第1回厚岸港まつりが開催される
- 1951(昭和26)年 ● 大黒島海鳥繁殖地が国の天然記念物に指定される ● 町報あつけし第1号を発行する
- 1950(昭和25)年 ● 十勝沖地震により、最大3・9mの津波を観測
- 1945(昭和20)年 ● 第1回あつけし桜まつりが開催される
- 1935(昭和10)年 ● アメリカ軍の艦載機から空襲を受ける
- 1935(昭和10)年 ● 大演習中の帝国海軍連合艦隊艦艇が厚岸港に入港
- 1931(昭和6)年 ● 北海道帝国大学理学部附属厚岸臨海実験所が開設される
- 1928(昭和3)年 ● 本町地区と真竜地区を結ぶ町営渡船の運航が開始される
- 1923(大正12)年 ● 厚岸郡太田村2級町村制を施行
- 1921(大正10)年 ● 厚岸湖牡蠣島の植物群落が国の天然記念物に指定される(平成6年に指定解除)
- 1920(大正9)年 ● 第1回国勢調査が実施される。厚岸町の人口は1万580人
- 1917(大正6)年 ● 釧路厚岸間に鉄道が開通。大正10年には根室まで延伸
- 1900(明治33)年 ● 1級町村制の施行により、4町7村を合わせ、厚岸町となる



十勝沖地震による津波の被害(床潭)



町報あつけし第1号

今から120年前の1900(明治33)年7月1日
一級町村制の施行により4町7村を合わせ
『厚岸町』が誕生しました



厚岸町の誕生 1900(明治33)年

明治24年、それまで厚岸郡を管轄してきた厚岸郡役所が廃止され釧路郡役所に合併したことにより、厚岸郡湾月松葉梅香若竹奔渡真竜苫多床潭末広瑠璃瀾別寒辺牛戸長役場が設置されました。

明治33年7月1日、道庁は一級町村制を施行し、厚岸町や釧路町、根室町など道内16の町村が誕生しました。なお、この時の厚岸町の行政区域(4町7村)は、戸長役場時代と同じ湾月町、松葉町、梅香町、若竹町、奔渡村、真竜村、苫多村、床潭村、末広村、瑠璃瀾村、別寒辺牛村でした。

この一級町村制の施行により、現在へと続く町としての、自治制度の歩みが始まりました。



湖南地区の市街(明治40年代)

太田村開設 1890(明治23)年

国防上、道東の重要地でもある厚岸に屯田兵村の設置が決まり、囚人たちにより明治21年に標茶厚岸間の道路が作られ、翌年には屯田兵舎が着工され、明治23年に太田村が設置されて戸長役場が置かれました。

太田村には、宮城、山形、新潟、石川、福井、滋賀、和歌山、兵庫、山口の9県から募集に応じた士族屯田兵440戸が入植しました。



北海道の有形文化財に指定されている太田屯田兵屋

新厚岸町の誕生 1955(昭和30)年

昭和28年に町村合併促進法が成立したことにより、太田村との合併について協議を重ね、昭和30年4月1日に太田村南部(本村地区)が厚岸町と合併し、新厚岸町が誕生しました。